

No.9 特定非営利活動法人 ファームパーク湘南

申請部門	申請区分	申請額
スタンドアップ (定着支援)	間伐材の利活用促進事業	20万円

団体概要

設立年月	平成18年2月
会員数	22人
団体予算	平成31年度予算額 615.6万円 (会費5.6万、事業収入590万、補助金20万)
活動内容	農地の活用による農業の活性化を目的として、県の中老年ホームファーマー事業のサポート、伊勢原市との協働による市民農園の運営、ボランティアによる共同農園の運営などを実施。

申請概要【間伐材の利活用促進事業】

事業内容	<p>活動回数 12回、事業予算 50.4万円</p> <p>伊勢原市三ノ宮地区の約1haの荒廃竹林・山林整備により発生する木・竹の間伐材(枝も含む)200本の集材・搬出・加工、チップ化を実施。</p> <p>チップの用途は、肥化、駐車場や通路に蒔く、マルチとしての利用。同時に竹やその根を除伐したエリアに植栽を行うなど植生を回復させ水源として環境を守ることも実施。</p>
	(継続申請事業)

事前調査結果

申請要件への適合	適
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ○継続申請団体(平成20年度から)。 ○間伐材の利活用促進事業については、昨年度に引き続き、3年目。 ○事業実施は適切に行われている。(中間報告書で確認済み) ○平成20年度から28年度まで、森林の保全・再生事業で竹の伐採等の活動を申請していたが、当該事業の補助期間満了に伴い伐採等の竹林整備は自主財源での活動に移行し、間伐材の利活用促進事業を申請している。

継続事業実施状況 (24年度以降)

【森林】	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績
会員数	18人	20人	20人	20人	22人
活動回数	12回	11回	16回	23回	17回
参加者数	延べ94人	延べ76人	延べ91人	延べ107人	延べ96人
整備面積	0.45ha	0.6ha	0.6ha	0.6ha	0.6ha
補助申請額 (補助実績額)	20万円	19.2万円	20万円	20万円	20万円
うち資機材	—	—	—	—	(不採択) 22.4万円 自走式草刈機

継続事業実施状況 (24年度以降)

【間伐材】	29年度実績	30年度申請
会員数	22人	20人
活動回数	18回	12回
参加者数	延べ89人	延べ80人
事業内容	①堆肥・腐葉土作り② 竹材利用活用・竹細工 ③昆虫類を育てる	①堆肥・腐葉土作り② 竹材利用活用・竹細工 ③昆虫類を育てる
補助申請 (補助確定額)	20万円	20万円
うち資機材	—	(不採択) 43万 小型クローラ運搬車

過去の事業実施状況 (23年度まで)

【森林】	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績
会員数	10人	10人	14人	12人
活動回数	7回	3回	12回	8回
参加者数	延べ48人	延べ103人	延べ108人	延べ80人
整備面積	0.15ha	0.3ha	0.3ha	0.45ha
申請額(実績額)	33.9万円	30万円	16.1万円	10万円
うち資機材	23.9万円 チェーンソー 1台、刈払機2 台、物置	20万円 刈払機3台、チ ェーンソー1 台、鋏、鎌、鉋	6.1万円 とび口4本、穴 堀2本、一輪車 2台	—

事業計画書 【間伐材の利活用促進事業】

団体名	特定非営利活動法人 ファームパーク湘南
申請部門	<input checked="" type="checkbox"/> 市民事業定着支援部門 <input type="checkbox"/> 市民事業高度化支援部門
事業名	間伐材の利活用促進事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (昨年度に当該補助金を受けた事業である場合は黒く塗りつぶしてください)
実施期間	31年4月1日～ 32年3月31日 (計16回活動)
実施場所※	伊勢原市三ノ宮1402の3 1405の1 1406他
間伐の内容	材の種類 竹 搬出量 100m ³ (竹100m ³)
参加者数(見込)	会員(90)人 会員外()人 計(90)人
資機材購入希望	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有

※実施場所は、位置図・写真を添付すること。

(1) 事業目的

伊勢原市三ノ宮にある現在の林と竹林は、所有者の高齢化などにより管理されておらず、放置状態にある。
日本固有の竹は、再生可能な大事な資源である。これを放置することは宝の持ち腐れに等しい。竹林を間伐しその間伐材を利用活用することにより、持続的な竹林の手入れが可能となり、更に堆肥、腐葉土作り、竹垣作り等も可能となる。更にはエリアの水源涵養機能が向上することが期待される。
同補助金を活用しての活動により、地元の人々が竹林を守り育てることの意義を理解して共に活動して地域の自然を守ることに寄与したい。また、比々多神社元宮までの山道は途中江ノ島なども見え景観もすばらしく、散策コースとして整備することも行いたい(自主的活動)。
同補助金を活用して活動を行っていることを伝えるのは県民への義務でもあるので、ホームページ、伊勢原環境展、「いせはら環境ネットワーク」への参加などで機会を捉えてPRに努めたい。

(2) 事業内容

伊勢原市三ノ宮地区の約1haの荒廃竹林・山林の整備により発生する木・竹の間伐材(枝も含む)200本の集材・搬出・加工、チップ化を実施する。チップの用途は、①堆肥化(有効な方法をいくつか試している) ②駐車場や通路に蒔く ③マルチとしての利用(抑草、野菜畝へのマルチ効果)。同時に竹やその根を除伐したエリアに植栽を行うなど植生を回復させ水源として環境を守ることも行う。チップの一部は伊勢原市民農園(委託管理)駐車場等に活用する。チップの効果は実験途上でもあり、配布・販路等は検討中である。竹棹を利用した竹細工には力点をおいて取り組みたい。

名称	実施時期・回数	人数	具体的内容・やり方	特記事項
堆肥・腐葉土作り	4月～12月 7回	延べ35人	竹間伐、チップ化、堆肥・腐葉土作り	
竹材利用活用・竹細工	4月～2月 5回	延べ35人	竹垣・柵作り、市民農園通路マルチ 暗渠排水利用、門松作り、 玩具・日用品づくり	
チップのマルチ利用	4月～3月 4回	延べ20人	効果実験 植木下への利用、各種野菜(畝)にマルチとして利用	

(3) 水源環境の保全・再生への効果（アウトカム）

事業を実施することで、水源環境の保全・再生にもたらす効果があるか、現状と目指す姿に触れつつ具体的に記入してください。

間伐・除伐により、竹林循環による持続的な竹林管理ができる。間伐材を利用して、土留め、堆肥置き場の製作、暗渠排水利用等、間伐材の可能性をアピールする。竹細工は指導を受けながらの製作となる。また、枝その他からチップを作り堆肥化や道の整備等に利用する。このような活動によって地域の人に改めて竹林の保全再生の意義を訴え、その保全に目を向けてもらうことが出来る。また、間伐による健全な根の育成などにより土壌の流失防止機能、水質の浄化機能が高まると推測される。以上の活動から多少なりとも低炭素社会への貢献も出来る。

(4) これまでの活動実績

初年度（29年度）～30年度上期までの活動実績

名称	実施時期・回数	人数	具体的内容・やり方	特記事項
チップ化	29年度～30年9月	延べ85人	堆肥づくり、道路へマルチ チップの野菜苗へのマルチ	チップ置場を作る 堆肥化の様々な試行
カブト虫飼育	29年度	延べ15人	腐葉土作り、幼虫飼育	成虫保護箱を作る
竹材利用	29年度～30年9月	延べ53人	土留め、暗渠排水、堆肥置場 竹細工試作 門松作り	竹細工は小学低学年 でもできそうな物を

(5) 今後の展開

①市民事業定着支援部門（将来にわたり継続して実施するための工夫。申請事業の今後の広がりや深まりを高める工夫。）

【数年後の目標】

竹林整備と、隣接する里山整備により、近隣の人々に慕われ、訪れるふるさとの山にしたい。竹堆肥の販売。チップの野菜作りの際のマルチ化の普及。竹細工教室なども開ければよい。ボランティアを募り竹林保全・竹の玉切りなどのイベントを行う。

また、この事業を次世代につなげるため、地域の人達との意思疎通や各方面へのPRを図る。特に竹林の地権者が竹林の有用性（経済面も含め）に気付き、整備をともにできるようにしたい。

【目標達成のためのアクション】

竹チップの堆肥化をいろいろな方法で試作し、販売に耐えうるものにする、同時に販路の研究もする。竹細工講師を招いて、研修を積む。小学校低学年の児童（以上）が出来る竹細工の試作を繰り返す。そのためには、適した竹の採取や保存方法の確立が必要となる。

(6) 安全面・県民へのPR

【安全面への配慮】

竹チップ化のため、破砕機を使うときは時間に余裕を持ち行う。竹材の加工に当たっては鋸、切り出しナイフ、きり、鉋等を使うので充分注意して行う。竹破砕機使用等についての安全面の講習を行う。

法人として障害保険に加入する。

【県民へのPR方法】

ホームページを作成し、活動内容を随時オープンにして、私たちの活動に賛同する仲間を増やす。伊勢原環境展などに参加して活動内容の周知を図る。

昨年度正式加入した「いせはら環境ネットワーク」と連携しながら環境に優しい街作りを進める。ファームパーク湘南所在地看板及び事業実施を示すPR用看板を設置する。